韓国泗川市へ

▶主催：福智町交流事業実行委員会
▶主管：福智町教育委員会

福智町日韓交流事業

Japan-Korea Exchange

福智町 ……2010……泗川市

1釜山港での温かい出迎えで始まった交流は 2周囲も涙した最終日の惜別で終わりを迎える。期間中は 3日韓友好記念碑 4南江流燈祭 5恐竜の足跡などを見学し、6韓国伝統芸能や7伝統衣装を体感。8歓送迎の式典も盛大に催された。

国境を越え、言葉の壁を越えた心の交流

上野焼開祖・尊楷ゆかりの地、韓国泗川市。ここから渡来した尊楷は、今から400年以上昔、福智山麓で窯を開きました。上野焼の始まりです。その縁で2年ぶりに実現した今回の日韓交流。福智町の小学5・6年生25人が10月8日から3日間、泗川市の東城初等学校を訪問しました。

高速船で到着した釜山港では現地児童や慶尚南道知事代理から手厚い出迎えを受け、東城小で盛大な歓迎式が開かれました。

期間中は、パトカーの先導で友好記念碑や九龍窯、韓国三大祭りの南江流燈祝祭、泗川航空宇宙博物館や固城恐竜博物館などを見学。事前に4回の研修でハングルを学習した福智の子どもたちは、覚えたての単語とジェスチャーを交えて交流し、伝統芸能や伝統遊技も体験しました。

韓国の文化に触れ、友情を育み、瞬く間に過ぎた3日間。最終日に握手を交わし、涙して抱き合いながら別れを惜しむ姿が、交流の深さを物語っていました。言葉よりも心で通じた体験は、一生の宝物として、子どもたちの胸に生き続けることでしょう。

日韓友好記念碑

2002年の上野焼四百年祭を期に始まった韓国泗川市との国際交流。永年の友好を祈念して一対の記念碑が両地に建てられています。

尊楷ゆかりの海岸線

町長日誌

▼今年も余すところ2か月となった。やがて、各種マスコミが一年間の出来事を一斉に取り上げ、薄れかけていた記憶を鮮明にしてくれる。わたしたち一人ひとりにすれば、身の回りのことを含め数え切れないほどのことが起こっており、社会全体の出来事は、一過性のものに終わってしまいがちである▼そうした中で、驚きとともに一種の悲しさと言ってもいい思いで受けとめられたのが、7月末に発覚した東京都足立区の高齢者にかかる事件ではないだろうか。生きていれば、都内の男性最高齢者と目されていたが、既に30年前に亡くなっていたという。その後、全国各地で同様のケースが、次々と報道されたのはご承知の通りである。死亡届が出されず、戸籍上生存しているのに現住所不明の100歳以上の人が、23万人もいることが、法務省の調査で分かっている。原因はいろいろあると考えられるが、人間関係の稀薄化が根元に存在するのは、容易に想像がつくのではないか。まさに、現代社会が抱えている最大の課題が何であるかを、改めて目の前に突き付けられたものだと理解している▼総務省の発表によると、住民基本台帳上では9月15日時点で、100歳を超える人は4万4449人、80歳以上は826万人に上るそうだ。アメリカのニューズウィーク誌は8月下旬の号で、「日本で高齢者は敬意を払われており、年をとるのに一番良い国だ」と称えているが、その評価を裏切らないためにも、かつての強い絆を地域社会に復活させなければならない。

浦田 弘二

広報ふくち ■発行／福智町（本庁）〒822-1292 福岡県田川郡福智町金田937番地2 ■URL http://www.town.fukuchi.lg.jp
■編集：総務課広報・広聴係 TEL 0947-22-0555 FAX 0947-22-0782 ■印刷：有限会社 川崎印刷